

- 10月8日(土) 15:00~17:00 東京堂 神田本店 『灘渡る古層の響き』(みずのゆ出版) 刊行記念 著者のトーク&サイン会
- 10月22日(土) 15:00~17:00 ギャラリー・ガラ 8回 南島学らいぶ<ト> 「トカラ渡島レポート」(註し) トカラ塾青年団+斎藤潤(東北芸術工科大学)+和相埴尚友(トカラ塾主宰)
- 10月26日(水) 19:00~ 中目黒GTプラザホール 6回 神武(こたけ) 夏子 ピアノリサイタル 「ネリー 自然(かむたはから)に」 フランス6人組から雅楽まで
- 11月26日(土) 15:00~17:00 ギャラリー・ガラ 「オの南風語り」 題「平島ガイドブック」
- 12月17日(土) 15:00~17:00 ガラ「東南アジアの野生動物を追う」 こいはの9回南島学ライブ 浅田正彦(千葉県立中央博物館)

まずは、この秋の行事案内から
 個々の詳細は同封チラシ、また次号まで

報 籠 屋 新 聞

かゴジン

暑中おこしよろこび

PHOTO 荒川優一



幅取り器
 制作指導中
 のセイちゃん(左)
 後方の三女性
 は竹細工の修業
 中。うち二人は
 別府の竹の学校
 卒業生。
 帽子の女性
 はアヤ子。この春
 まで、40歳まで
 のボス。竹子ノク
 制作中。

誌代カバは
 下記の如くお
 ねがひします。

郵便振替
 00160-1-11979
 籠屋新聞社

鴨川市代 623
 E-mail
 nao_tomo@
 island.dti.ne.
 jp

トカラ塾ホムシ
 (更新)
<http://www.tokarajuku.sakura.me.jp>



『灘渡る古層の響き』(みずのゆ出版) 出版記念会 5.27. PHOTO 藤田未作

幅取り器。制作ワークショップ

8月11日~12日

於鴨川本舎

モロモロの
〈動き〉



PHOTO

鴨川本舎

2011.5.27.~10.26.

5/27 灘渡る古層の郷音キ
(神戸市、みずの出版)

出版会。於東京渋谷

成盛況。当日は、アマニストの

神、武夏子さんの演奏と

それにあわせて、著者の朗

読があった。参加者は六十人ぐう。遠

くは岩園市(山口県)から藤井氏が

来てくれた。宮本常一の高弟であ

る田村蓋次郎氏も吸入器を背負え

る。イナガキで来てくれた。

6/18 (土)

二見彰一版画展」初日。神奈川

県立美術館鎌倉別館へ社主は出

向く。鴨川(トランプ)一金谷港(船)久里

浜(電車)JR鎌倉駅(徒歩)会場

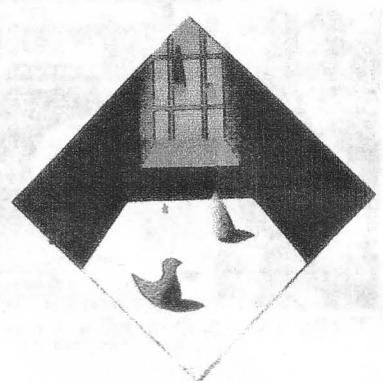
収蔵されている四百点弱の作品の中

百点弱が展示されていた。青い透明な

世界が広がっていた。氏が仕事場にもして

た北ドイツの空を巨が北舟中を押しはいるの

二見彰一版画展



だろうが、その仕事は国内に居たときから始

まっている。講演会の席で、ひとり「二見さんは

信仰をお持ちなのですか?」と問うたの、もうな

ける。北政の肌をひきしめるような国土とか、

い青が、その質問者ならずとも強く印象であ

うか。ちなみに、質問者はキリスト教の理念を捧

ぐる学校法人の関係者だ。これだけ大がかり

な二見版画展は、しばらく観ることはできないの

はなからうか。十月十日まで展示されている。

6/18 「神々の棲む沖繩と近代の歩み」講演会。

粕垣一雄氏が講師として、沖繩のかかえる
向題(軍用基地、信仰等)も提示された。

氏は日本海時代の祭典の事、局長であり、トカラ塾のそれでもある。また、NTS出版の版元でもある。どこから収入を得ているのか、怪しい日常を送っている。

6/21 (火) 日賀出版から竹細工竹太工の手法

書の内容三弾を出すべく、鴨川に寄り合う。甚川(早奥)、鈴木(編纂)中山(デザイン)と社主の四人。早めにアールコルが入りこまない(喉元へ)、話

がまとまったのか、まじまじながたのか、判然としづらいまま、日付けが終

(土) ったしまった。

6/25 「ナオの南風語り」於梅丘の地から

演題は「青海丸」。無人化した敵島の最後のハシケ舟の軌跡を辿り、島の平準化された暮しの終末を

解く。終末に気がかされたのは、生物学者であった。システムには始

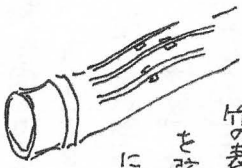
まりがあり、終りがある、と、うことである。島のゆるぎないマダギ(協同)システムの変容を、そして新たなシステムと模索する島モアツク語った。

7/22 横浜エニシア文化館の企画展で、

フリージンのナイフが使っていた竹筒琴を観る。弦と胴体がひと節の竹で作られる

竹の表皮を三本切り出し、それを弦としている。実に精巧

にできている。細長い皮竹が弦になりえるのは、やはり



南オの気候の元に育った竹の特性なのだろう。

それと、入手が許される範囲の素材を治かすことが日常中に行っていること、西

である。数日前に偶然、目にしたBBC放送の番組に、シンハイ、鯨の保護

運動に情を傾ける動物学者が映し出されていた。鯨の体にカメラと電

波発信器をとりつけて、まは移動ルート、追跡が始める。個体数の激減している鯨を探すのがいと苦勞である。クルーザーと

使い、ヘリコプターを使い、可能なかぎりの

利器をどういにする。爆音と油をたれ流しにする姿勢こそが、個体数の激減に力をかしていることに、息を返す、資質はうかがえなかった。身の回りにある素材を若

かして暮らすことがリトリート (Retreat) であり、これは徹底「隠遁」とは違

7/23 (土) ほぼ二ヶ月に一度用かかれている「南島学ライフ・トーク」の日。午後三時から、梅丘のギャラリー・ガラで、講師：足立明氏。

この一役をかめしめてこそ人生 (Vitality) の者者である。米弄という年輪の重みは、

南と者と、腰を定めて離さない。ニニニニ、ゾルケ、軍事教練、マッカーサー、徳田球一、

志賀義雄などのコトバが、生々しく出てくる。

同時に、原案採絶への合意語も生々しかった。

9/12 ワークショップが開かる。竹工の幅を
 そろえるための道具作りと、本社の
 電子化のためにパソコンをカニバして
 くれた甘利博正の、そのフォローをす
 るために来聘した太作、それと
 参加者の食事作りに来た料理人
 共五、六人の夜の宴のサシミと準備
 した鮮魚(仲買人の吉延、そうした
 人たちの宴にのみ加わるために来た人
 たちの集まりだった。(元加カ主)

10日 到着者一太作、俊一、ボツケ、綾子
 11日 アマヨカシム、鮎島(銚金、彰金)
 小宮(神奈川県公園協会)(ゆづり細工)
 誠さん(平飼りマゴ庄産、野ザモ)
 詩世(竹細工、みずす細工伝承予備軍)
 紗耶(竹のカトラリ作り、竹細工)、西嶋(竹
 細工)吉延(魚使員人)

9/10 山口県国防大島交流センターで
 「レックマンニシヨ」稼働、西へ。

9/11 破れ竹ガゴの修復ワークショップとカラ
 壑「南風語り」大島版。

9/11 鹿見大島市城山町の自然食レストラン
 作樂で、ナゲガ詩の朗読をする。

9/12 夜十時五十分出港の五リーとしまで、諏訪
 之瀬島へ。同道者一潤、大伴芽朗、オホ
 9/13 台風の他に低気圧が北上中のことで、
 五リーとしまは平島に着岸できない。

次の安可港地・スワセ島に四人は上陸。
 ナゲガで昼食、食E飽走になる。
 ナンガ巨でもお茶を。五時向
 後に上り漁が、港し、再び
 乗船。潤と芽朗は鹿見島
 へ戻ることにした。今後一週
 向以上は船が通えない海に
 なるからだった。残りの二人は
 中之島に上陸。上り後も平島
 へ通過した。詳細は次号で。

手ごわい新聞が長岡市に

新報県下でその名をどうにかさせている刈屋
 兄弟が創刊した「八百屋新聞」がネット
 配信された。七月四日(月)のことである。山県
 岩園市広瀬の堀江農場で、安心野菜作り
 の修業をつみ、今春から郷里での野菜作り
 が始まった。兄弟の最大の強みは、「感謝」
 の気持ちに溢れていること。それが人と呼び、知
 恵と呼ぶ。当誌の「及ばばい、礼儀正しきほ、
 きょと、何がきょとでかしてくれるであろう。」

八百里新聞 創刊号 2011年7月4日(月)発行

刈屋さんちの安心野菜



八百屋新聞 創刊号

刈屋さんちの
 安心野菜
 〒940-0145
 新潟県長岡市
 電話 285-6
 電話/FAX
 0258-80-7699
 E-mail
 kariya.bro@gmail
 .com
 ブログ
 http://blog.lived
 .net/wp/kariya/pt
 ツイッター
 kariya

御用のあいさつ
 はじめまして、刈屋兄弟です。
 この春、私たちは数年間あたたか
 ぬてきた「刈屋」で野菜をす
 るという夢の種を蒔いた大地に
 ときまして、私たちは長岡市堀江
 という山間の地で、日々はどの
 節も「野菜を育てています。野
 菜は八百屋新聞」と書いて、野
 菜の生長過程、日々の暮らし、考
 えていること、好きな本などを
 新鮮な野菜とともにお届けしたいと
 思っています。何分畑仕事者の命題を離
 れていないため、刊行日はあ
 らず不定期、休力次第、気分次第
 改めてお礼申し上げます。